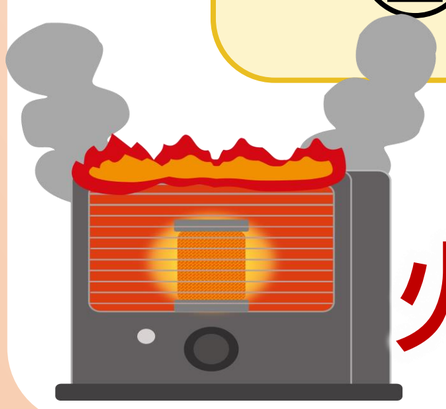
危険物（きけんぶつ）とは？？

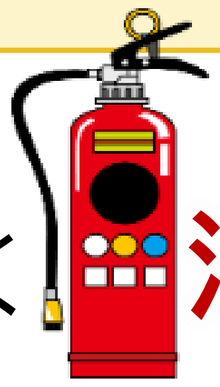
消防法で定められている**危険物**は

２０℃で **固体** または **液体** で

① **発火、引火しやすい**もの

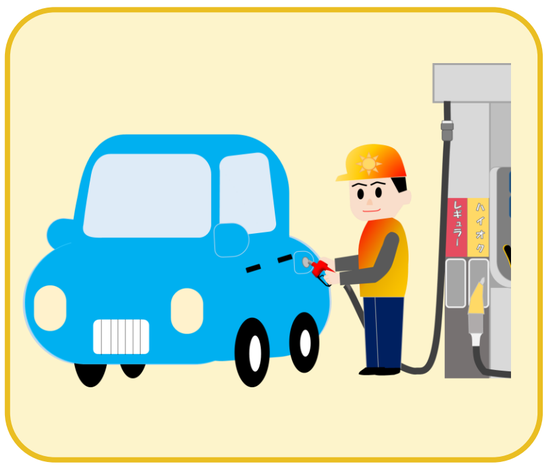
② 他の物質の**燃焼を促進する**もの



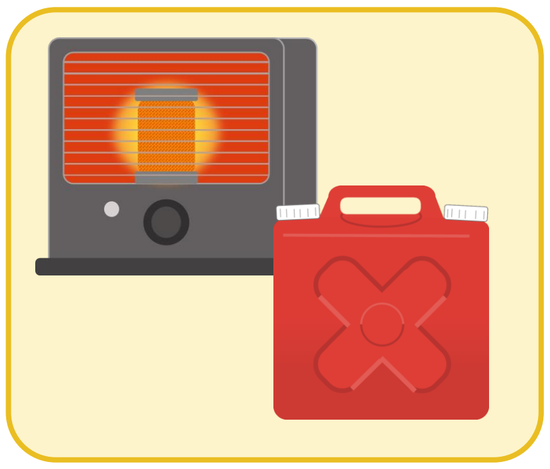
火災が発生しやすく  **消火**が難しいものです

身（み）の回（まわ）りの危険物（きけんぶつ）

身の回りにある危険物は 使い方を間違えると火災が発生する危険があります。



車の燃料
（ガソリン、軽油）

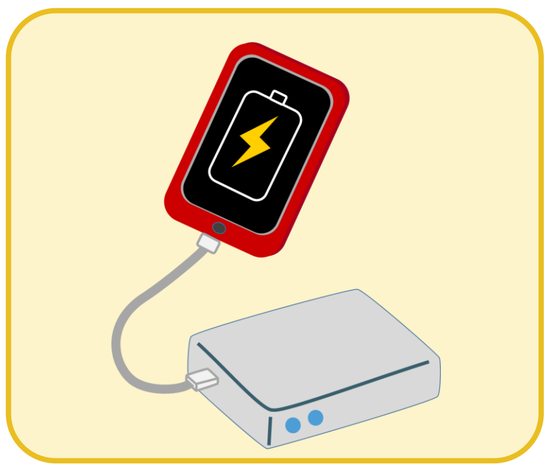


ストーブの燃料
（灯油）

消毒用アルコール、
度数が高い酒類

アロマオイル、
動植物油

スプレー缶
（エアゾール製品）



モバイルバッテリー
（リチウムイオン電池）

着火剤、
固形燃料

花火

化粧品

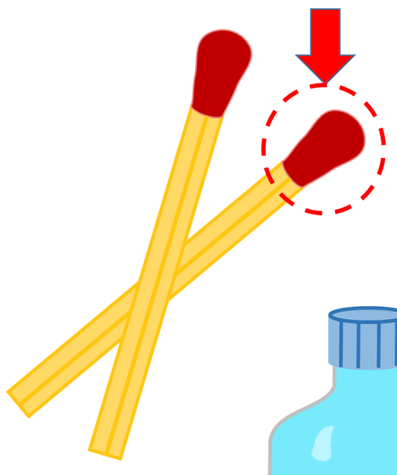
その他、危険物を含む製品はたくさんあります

消防法の危険物の分類と性質

危険物は その物質の持つ性質によって６つに分類されています

第一類　酸化性固体

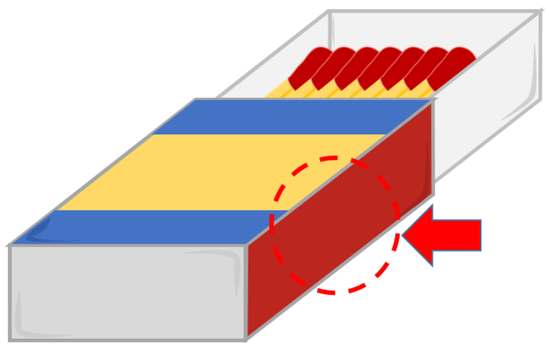
物質そのものは燃焼しませんが、可燃物とまざったときに、熱や衝撃、摩擦などによって分解し、可燃物を激しく燃焼させる危険性がある固体です。



例：過塩素酸ナトリウム
　　次亜塩素酸カルシウム
　　塩素酸カリウム

第二類　可燃性固体

火炎により着火しやすい固体、または比較的低温（40℃未満）で引火しやすい固体です。

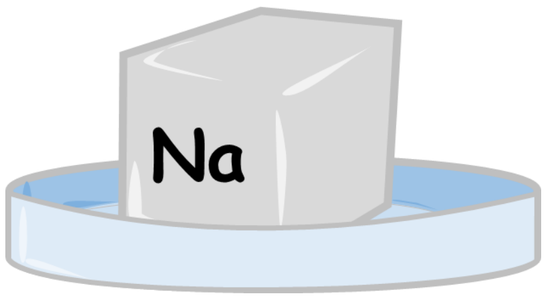


例：金属粉
　　赤リン
　　固形アルコール

第三類　自然発火性物質及び禁水性物質

空気にさらされると自然に発火する物質や水と接触すると発火や可燃性のガスを発生させる物質です。
周囲に火気が無くても燃焼する危険性がある固体又は液体です。

例：ナトリウム
　　炭化カルシウム



第四類　引火性液体

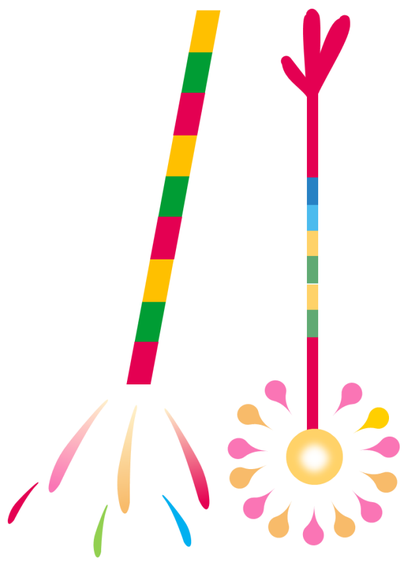
引火性を有する液体で、低い温度でも引火する危険性があります。
火炎を液体に接触させなくても、可燃性の蒸気を伝って着火します。

例：ガソリン
　　灯油、軽油
　　消毒用アルコール

第五類　自己反応性物質

熱や衝撃、摩擦などによって分解し、比較的低い温度で多量の発熱または爆発を伴う反応を起こします。

例：過酸化ベンゾイル
　　ニトロセルロース
　　ピクリン酸



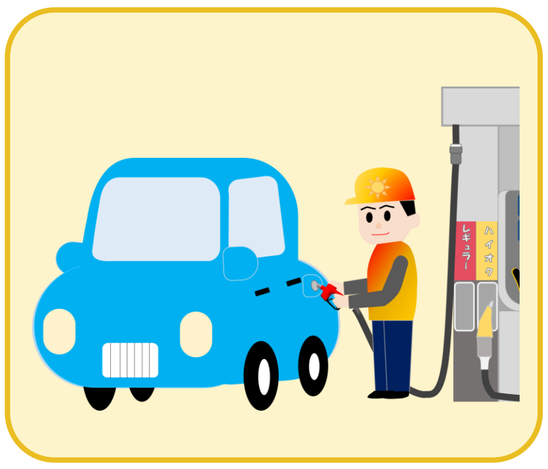
第六類　酸化性液体

物質そのものは燃焼しませんが、可燃物と混合するとその可燃物の燃焼を促進する性質があります。

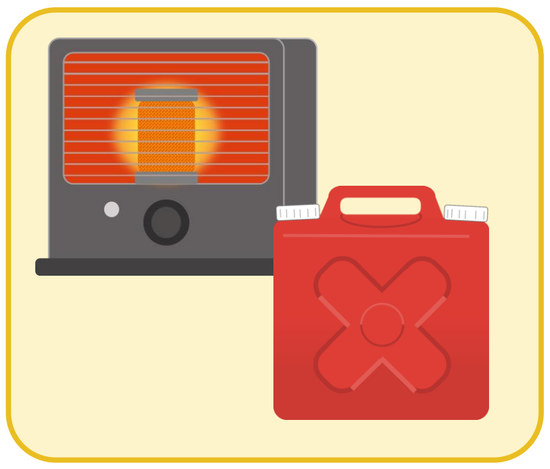
例：硝酸
　　過酸化水素
　　過塩素酸

身の回りの危険物

身の回りにある危険物は 使い方を間違えると火災が発生する危険があります。



車の燃料
（ガソリン、軽油）

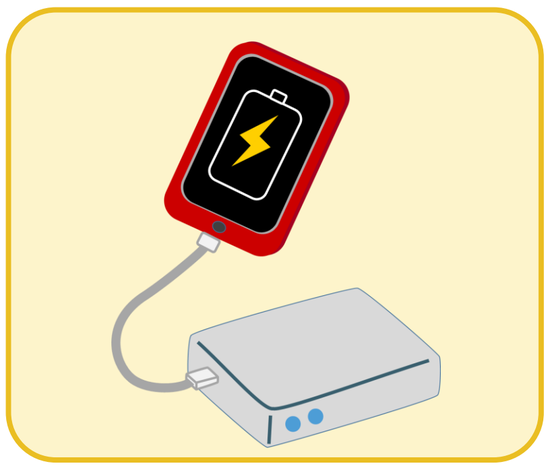


ストーブの燃料
（灯油）

消毒用アルコール、
度数が高い酒類

アロマオイル、
動植物油

スプレー缶
（エアゾール製品）



モバイルバッテリー
（リチウムイオン電池）

着火剤、
固形燃料

花火

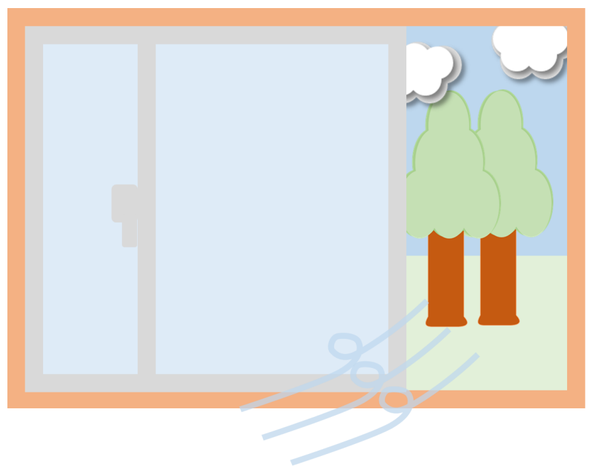
化粧品

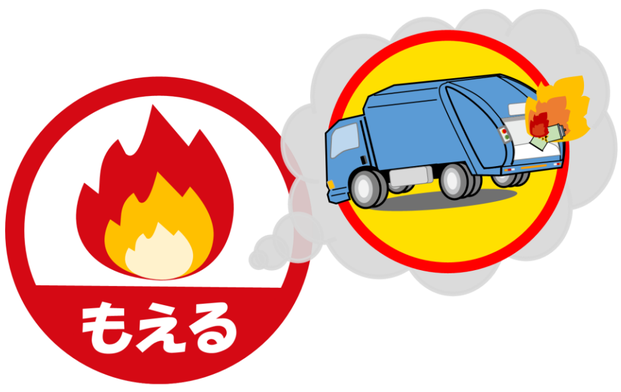
その他、危険物を含む可能性のある製品は数多くあります。

危険物を使用するときの注意事項！

● 火気の近くでは使用しない

● 詰替えを行う場所では換気する



● 直射日光が当たる場所に保管しない

● 自治体の分別排出ルール・指示に従って正しく廃棄